

日本風景街道だより

2009年夏号

シリーズ: 各地域の風景街道の取り組み

秩父路ルネッサンス（風景街道関東地方協議会）

1. ルートの概要とその取り組み

「秩父路ルネッサンス」は、埼玉県の間越自動車道花園ICから雁坂トンネルまでの国道140号と、その周辺の県道等を軸とし、道・沿道・地域を舞台とした魅力づくりを目指しています。

活動は、NPO法人を中心に、民（NPO、観光、公共交通等関係団体）・学（学識経験者）・官（国、県、市）でパートナーシップを構成する「秩父魅力アッププロジェクトチーム」により、アイデア出しから計画づくり、実施に至るまでの取組を行っています。

現在は、特に道路からの眺望の向上、地域資源の活用、新たな魅力スポットの開発を中心に取り組んでいます。



2. 道路からの眺望の向上

(1) 美しい山並みを楽しむ「景観間伐」「視点場づくり」

ドライブをしていて見通しがきかず、周囲のうっそうとした樹木が気になることがあります。もっとすっきりすれば明るくなるし、木々の向こうの美しい山並みも楽しんでもらいたいという思いから、「景観間伐」と「視点場づくり」に取り組んでいます。「景観間伐」は、沿道のスギやヒノキの一部を伐採することにより道路からの眺めを改善するものです。平成18年度には、埼玉大学の協力を受けての適地選定の基準作りや、ボランティアによる枝打ち体験を実施しました。平成19年度からは「景観間伐」に加え「視点場づくり」として、渓谷と紅葉を鑑賞できる絶景ポイントに、駐車スペースを確保し眺望空間の整備に取り組みました。平成20年度は、より多くの人に美しい眺めを楽しんでいただくため、案内板設置と転落防止対策を実施しました。



景観間伐



視点場の状況



案内板

(2) あじさい街道の景観・環境の向上

平成初期に地域の魅力を向上させるため国道299号にあじさいが植えられましたが、近年は花の付き方などが芳しい状態ではありませんでした。

そこで、平成20年度に小鹿野町の沿道の一部をモデル区間として、地域の方々とワークショップを開催し花の色や配置の仕方を検討するとともに、ボランティアの協力を受けて剪定を行い、沿道の景観・環境の向上を図りました。



あじさい街道の様子

3. 地域資源の活用方法の検討

(1) 五感になぞられた秩父の魅力資源調査

「風景・味風景・かおり風景・音風景・ふれる風景」の五感による観点から、秩父の新たな魅力資源を発掘するもので、一般公募により資源の収集・抽出を行いました。平成20年度は、抽出した資源をデータベースにまとめるとともに、風景づくり活動と秩父地域のPRを目的とした「五感の風景ごよみ」(五感・季節・地域ごとに風景資源をとりまとめたリーフレット)を作成しました。

(2) エコハイクコースづくり

「道」の魅力を発見抽出するため、一般市民参加型でコース散策を実施し、散策結果の体験レポートを提出していただくことで、隠れた魅力やPR方策などを検討しました。平成20年度は、この結果を踏まえ7つのコースマップを作成しました。今後「五感の風景ごよみ」とあわせ、各方面に情報を発信していく予定です。

4. 水辺のオープンカフェモデル研究（新たな魅力スポットの開発）

「道の駅あしがくぼ」(横瀬町)の北側には横瀬川が流れており、自然の要素を容易に取り込める空間が広がっています。そこで、この横瀬川にオープンカフェを設置する新たな魅力スポット開発に取り組みました。

デザインは、道の駅利用者に良好なサービスを提供するとともに、施設内の利用者を適切に誘導してカフェのある水辺や食堂等の賑わいを創出することを目的として、埼玉大学・道の駅・行政などのメンバーによるワークショップ形式で検討しました。

水辺カフェは平成21年5月に完成しましたが、今後はその運営方法について検討を行う予定です。



水辺のオープンカフェ整備状況

5. おわりに

地域での様々な活動をとおして、「地域の魅力を高めるには、地域固有の資源を掘り起こし、これらをつなげ発信していくこと。」という地道な取り組みが重要です。

また地域住民にとっては日常の当たり前の風景が、訪れる人にとっては新鮮なものであるかを、お互いに気付くための「しかけづくり」が地域の魅力を高める大きな要素になると感じています。

今後も、地域と地域をつないできた、交流の役目を果たしてきた、そしてその土地固有の歴史や文化・風景を含む風土を育ててきた「道」の価値を、多くの方々と話し合い、そして共有しながら、秩父の持つすばらしい魅力を発信していこうと考えています。

いやし・もてなし神山街道会議（四国風景街道協議会）

1. はじめに

神山町内では、国道、県道の清掃を行う神山アドプト会議をはじめ、神山アーティスト・イン・レジデンス、グリーンバレーなど、各地区にボランティアグループがあり様々な活動をしています。山里の緑あふれ、豊かな自然を生かしたまちづくりとして、道路沿道の空間の美化を実施するとともに、道路アドプトや遍路道整備の活動を通して自然と共に生き、やさしく快適な町づくりをしています。

2. 紹介

●神山さくら会

神山町を日本一の桜並木名所に、未来の子供達に、過疎のまちを離れた人のふるさとに、活力ある町に甦らそうと活動は最初は少人数から始まった。それに共鳴する仲間が年々多くなり平成15年に神山さくら会（会員20名）を結成、平成19年には特定営利活動(NPO)法人神山さくら会（会員40名）を設立した。

植栽した桜が年々花を咲かせ、始めは点々と植栽されていたが、現在では点から線になった。田舎の耕作放棄された田畑や管理されていない道路沿いの山林に桜を植えることで、環境保全と景観の美化に貢献している。



苗木の育成



植樹



手入れ

さくら開花の風景



お遍路さんへの接待

神山さくら会 HP <http://kamiyamasakurakai.dip.jp/>

●アーティスト・イン・レジデンス

国内外からアーティストを招聘し、小中学校の空き教室や空き家をアトリエとして創作活動を行うことにより、沿道周辺地域全体を含めた道路の空間を舞台に地域固有の歴史や文化、風景をテーマにして「訪れる人」と「迎える人」の豊かな交流による地域コミュニティを再生する。



作品



作品

●お遍路案内看板

神山町は四国霊場八十八箇所の12番札所があり四国遍路の通り道である。歩き遍路が増加している昨今、歩いていて一番はトイレに困っていると言う。お遍路さんが「安全」「安心して」「心豊かに」巡礼できるよう遍路道路沿線の住民に呼びかけ、もてなしの気持ちをお遍路さんに分かりやすくするため「道案内・休憩・トイレ使用」等を快く行うことができるお遍路案内看板を沿道や軒下に設置する。



看板

道案内
トイレ
休憩所

休憩所



お遍路さんの通る
場所に設置

3. おわりに

「何がどうだとは言えないんですが、とにかく綺麗なんです！」神山町に足を踏み入れた人からよく耳にする感想です。アドプトプログラムによる散乱ゴミの減少、幹線に沿って延々と植樹されている枝垂桜並木など、風景をそのまま放置するのではなく、少し人の手を加えることによって「より良いもの」に変えていく。住民が起こした様々の小さな試みが実を結びつつあるのではないかと思います。「いやし・もてなし神山街道」では、身を置くだけで爽やかさが体感できる。そんな風景を訪問者の心の中に描いていきたいと考えています。

参考

【神山アドプト会議】

説明 日本初となるアドプト・プログラムを住民主導で導入、道路の清掃・草刈り等を行っている。

【グリーンバレー】

説明 個々に活動していた神山アーティスト・イン・レジデンス、神山アート、ポスターギャラリー神山などの団体を総括してできた NPO 法人

事例紹介:アクションプランの策定

渥美半島菜の花浪漫街道（風景街道中部地方協議会）

風景街道の各パートナーシップの皆様におかれましては、鋭意、継続的に活動されていることと存じますが、今回は、今後の活動における参考事例として、渥美半島菜の花浪漫街道（風景街道中部地方協議会）の「アクションプラン策定」について紹介させていただきます。

この「アクションプラン」は、菜の花浪漫街道の将来像を共有するために昨年度策定した「基本構想」を、着実かつ早期に実行に移すために作られた短期の行動計画です。菜の花浪漫街道では、このアクションプランのもと非常に活気のある活動が続けられています。

1. 渥美半島菜の花浪漫街道

渥美半島菜の花浪漫街道は、渥美半島を一周する国道 42 号と 259 号を主軸として、南北につなぐ県道や市道、自転車道など田原市全域をエリアとしています。

波静かな三河湾と壮大な太平洋を望むことのできる常春の渥美半島。アカウミガメやサシバの渡りなど多様な動植物に恵まれ、島崎藤村の叙情詩「椰子の実」で有名な伊良湖岬など自然環境や美しい景観に恵まれた地域となっています。

また、500 年の歴史ある城下町として栄え、鎌倉時代の伊良湖東大寺瓦窯跡、縄文時代の貝塚遺跡など歴史文化のロマンが漂う中で、全国一の農業や製造品出荷額全国第 13 位という活発な産業を背景に、環境と共生する豊かで持続する地域「たはらエコ・ガーデンシティ」の実現を目指す地域にあります。

菜の花浪漫街道の取組は、環境共生に取り組む風景街道のトップランナーとして道づくり・郷づくり・人づくりを実践し、地域資源を活かした「エコ ガーデン ロード」の実現を意味しており、この風景街道を起点に、地域活性化、観光振興、地域間交流、循環型社会の実現等を推進することを目指しています。



2. アクションプラン策定

(1) 策定の背景

田原市は、2 回の合併により住民意識が多様化する中で、菜の花浪漫街道の将来像を共有し、取組の方向性を定めるため、平成 20 年 3 月に環境共生を念頭に置いた基本構想を策定し、基本理念を「**花が彩る潮騒のエコ ガーデン ロード～環境共生のまちづくり・道づくり・郷づくり・人づくり**」とし、重点施策をとりまとめました。

そして、基本構想で位置づけた施策を着実かつ早期に実行に移すため、平成 21 年度から 25 年度を具体的な行動計画の期間と定めるアクションプランを平成 21 年 3 月に策定しました。

(2) 策定体制

プランの策定に当たっては、パートナーシップ会議の専門部会として策定委員会を設置しました。委員は、組織の中で具体的な活動をしている人を中心に選出し、市役所においても関係部局で構成する市内ワーキング会議を設けて課題抽出や計画の検討を行い、策定委員会に反映しました。

委員会では、主軸となる道路の景観阻害となる実態調査から改善点を把握し、組織の活動状況や課題などについてヒヤリングや積極的な意見交換を行ったことから、効果的、かつ効率的な短期的取組方針を定めることができました。また、風景街道としての整備の方向性について具体的な手法の検討を行い、各プロジェクトについて、誰が(実施者)いつ(時期)どこで(活動内容)何を(施策)どのように(課題の克服方法・体制)実施するか検討し、主体別に時期を示して整備の方向性を明確にしました。

策定委員自ら撮影した景観を阻害された交差点などの写真は 100 枚を超え、これらの改善策や農・漁・商・工連携の必要性、着地型観光の推進、取組評価の必要性など様々な視点から議論が行われました。

(3) 各プロジェクトの設定

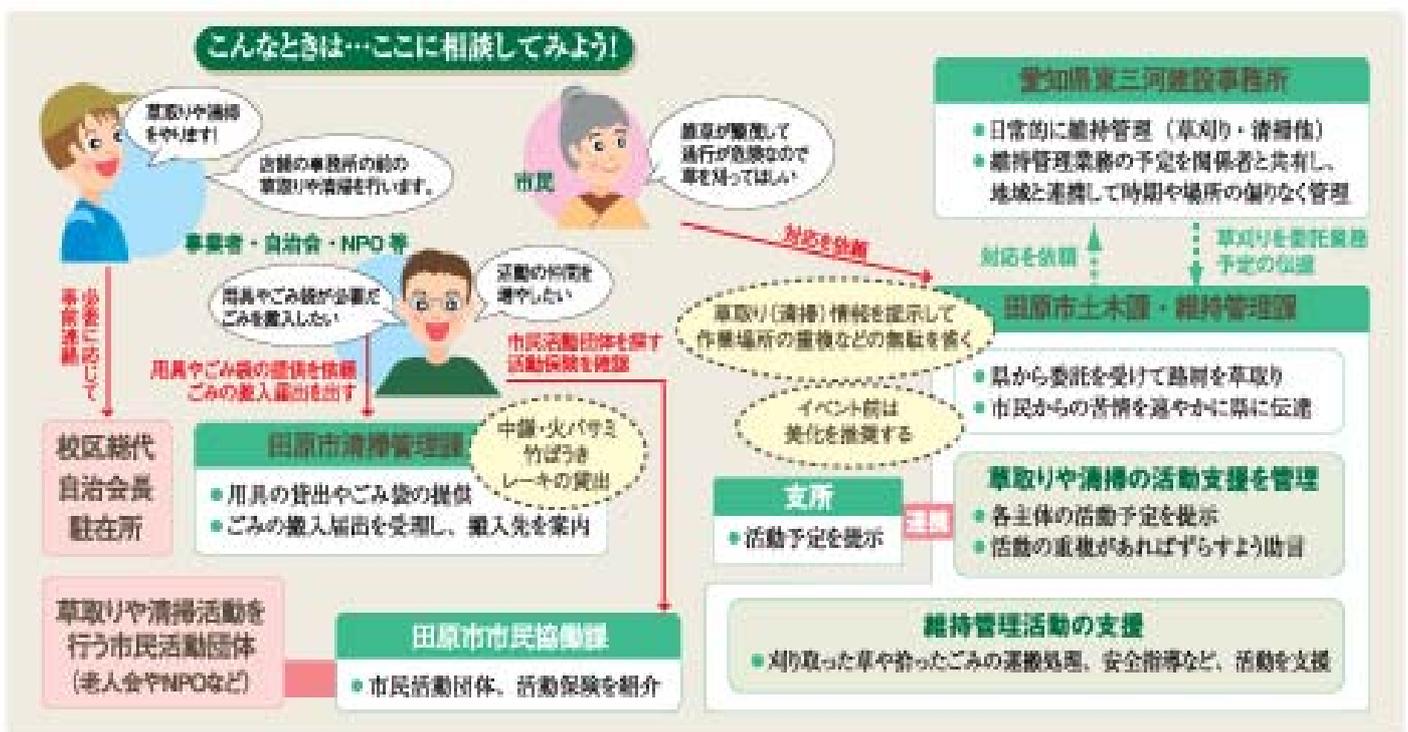
アクションプランでは、重点的に実行する施策を「道づくり」「郷づくり」「人づくり」の三つの分野に分けてプロジェクトの整理を行いました。

○道づくりプロジェクトと人づくりプロジェクト

このプロジェクトでは、「菜の花エコプロジェクトの推進」や「草取りの推進・清掃活動の推進・市民活動のネットワーク化」「花・海・エコに関する教育の推進」など 11 の短期事業を掲げ、事業ごとに年次計画を作りました。

情報の共有化を図るため、具体的な相談・連絡窓口の一元化を行いました。美化活動の実施時期や活動団体を把握し、道路管理者との調整もスムーズに行えるように配慮し、清掃道具や活動保険、処分方法などの相談にも対応できる体制としました。

下図のように取組手順を市民の立場に立ってすべての事業において図式で整理し、市民が取組やすくなるように工夫しました。



○郷づくりプロジェクトと人づくりプロジェクト

このプロジェクトでは、「花・海・エコに関するイベントや商品の提供」「既存資源の活用と新しい旅行形態の導入」「住民との交流の促進」「道の駅を核とした情報の発信」「市民活動のネットワーク化」など 7 つの短期事業を掲げ、道づくりプロジェクトと同様に具体的な取組の手順を図で示しわかりやすく整理しました。

(4) リーディング事業の紹介

市内では、既に事業として具体的に活動している先進事例があり、これを「リーディング事業」として位置づけ、これらをモデルケースとして市内に拡大・普及をしていくこととしました。

《事例 1 常に菜の花のある地域づくり》

菜の花エコプロジェクトに関わるリーディング事業

和地校区では、国道沿いの遊休農地をコスモス畑として景観向上と観光資源に取り組んでいる。「常に花のある地域」を目標に地域住民と小学校が連携して種まきや草取りを行いコスモス畑とした。冬季は菜の花畑となる。



《事例 2 花木の保護・育成と美化の推進》

草取りの推進・清掃活動の推進に関わるリーディング事業

泉校区では、平成 21 年度から国道 259 号沿いの植樹帯に花木(寒椿)の苗木を植栽し、日常管理は地域で行う。市から依頼されたボランティアが水やりや花木の育成、草取りなどを行い、両者のパートナーシップの下で維持管理と美化に取り組む。



《事例 3 エコツーリズムの導入》

既存資源の活用と新しい旅行形態の導入・住民との交流の促進に関わるリーディング事業

渥美半島の自然を体験するエコツアーを平成 21 年度から開催。NPO と連携して自然解説を行い、生物多様性を地域内外の人たちに理解してもらうことを目的とする。



《事例 4 カーナビを活用した旬のドライブルートの案内》

情報の集約とタイムリーな発信に関わるリーディング事業

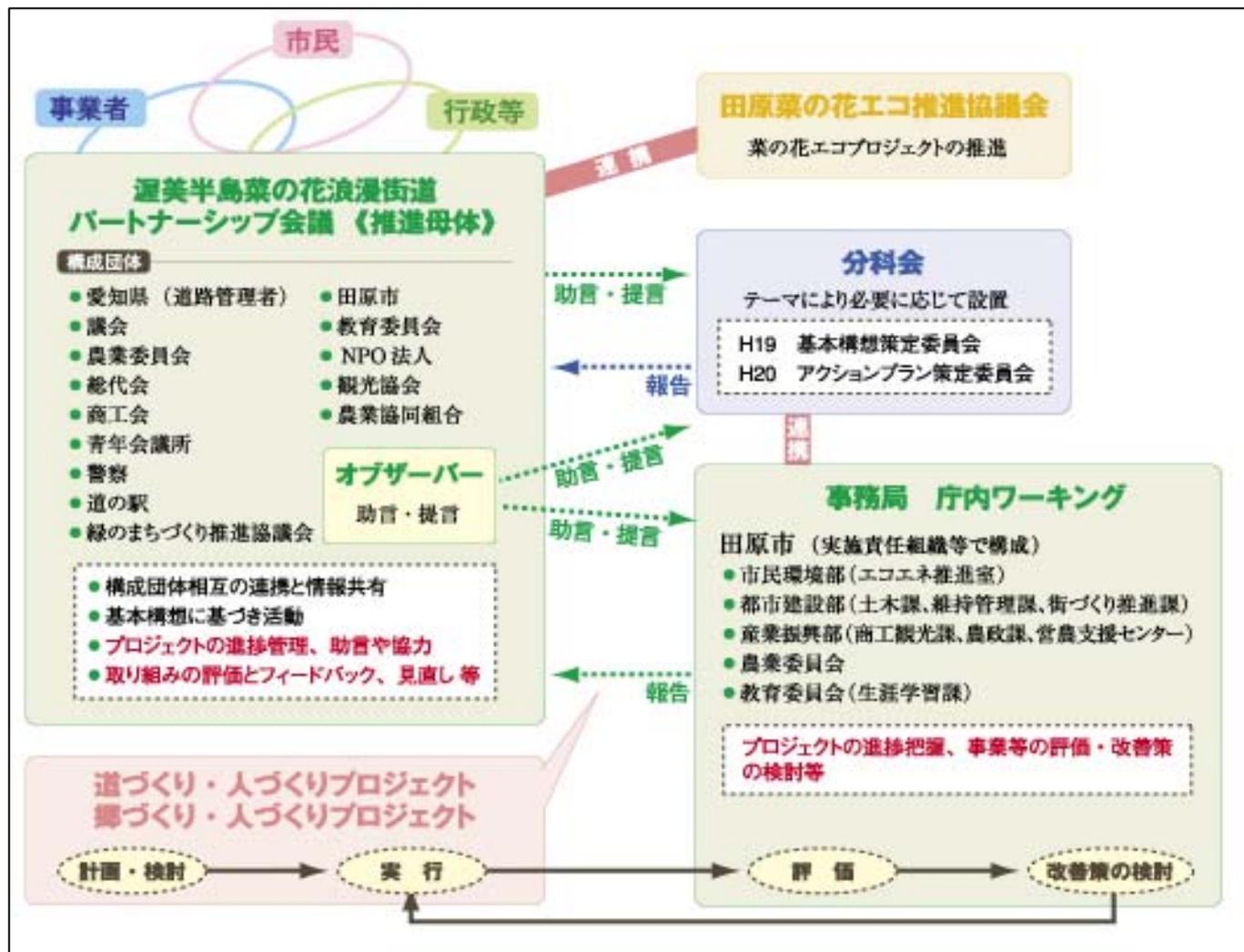
自動車メーカーのカーナビゲーションに菜の花浪漫街道が景色がよく快適なドライブコースとして発信。伊良湖岬周辺の立ち寄りスポット、旬の情報、その時期の見所も情報提供される。



(5) プロジェクトの進行管理と評価

進捗管理は、推進母体であるパートナーシップ会議が行い、各プロジェクトの実行支援を行うこととしました。構成団体相互の連携と情報を共有し、毎年度 PDCA サイクルによる「計画検討」「実行」「評価」「改善策の検討」を行っていきます。

また、行政内での所管の責任体制も明確にし、市内ワーキング組織で進捗状況や課題をとりまとめ、パートナーシップ会議に報告し、事業の見直し検討を行うこととしました。



3 アクションプランの普及啓発

アクションプラン概要版を作成し、市民や関係団体への配布とともに各イベントや人材育成講座などを通して普及啓発に努めています。

また、平成22年2月に田原市で開催予定の第10回全国菜の花サミットを目指してアクションプラン1年目の成果が反映できるように各プロジェクトを推進し、全国から訪れる人々に菜の花浪漫街道から素晴らしい交流が生まれることを期待しているところです。

計画策定を通して、現況や課題を改めて認識し、市民が風景街道の具体的な行動計画策定に関わったことから問題意識も深まり、市民一人一人がまちをきれいにという気風が高まりつつあり、ボランティア活動も増加しつつあります。

今後も、渥美半島菜の花浪漫街道の基本理念「花が彩る潮騒のエコ ガーデン ロード」の実現のため、道を舞台にした美しい渥美半島づくりに市民、事業者、行政が一体となり取り組んでいきたいと思ひます。